

鞠丸口傳抄

地



一 彦作同懸本あり事

毎に廣略二つあり又枚を無と懸
たやとしあ後うしつととる内んあ
更し其分有るうは依を代は只鞠場
いあうしあうひくあしあうととと
ひひとあひあうしあうとととと
子と甲ととととととととととと
ひうくつととととととととととと
い本をて極なり地なりととととと



かこうくこと用さしつて凡そ作ら
るりしつてえ本とさきくそ作ら
て後し本とさき及そんそ
中しり

一 松樹ノ事

或の懸くし松柳 鶏冠本松也本れり
う文ニとんまくとつ極者ハ松也
もわり出代き、如松大松とそ
し極くそわさし也

本れ間ニ又よと其らも用として極つて
八尺かくと一向暗状すり
一極極ノ事

む向の極なりしきりし柳
む向の極なりし松けり
下極なりし外東向西南
中極なりし外東向西南
む向の極なりし松けり
不て有と雖も也

つ通し成して五斗可さき退くは日
くく丸物氣よそし公法りらしては心也
懸く鞠ははつ何懸る中まらよ
むかふとくはまらゆかましく我もは
廻りぬるもるゆか何人もは
不うぬ人とひるぬると通かる但も
中ひるまらぬとらまらぬ本より
わらひぬるもらひぬるもらぬ本
の中もらぬとらぬとらぬ本

乃此のを結もを得とさかしくなり
乃道は我もはつてぬ也常何家法
ひるもはまらぬとらぬとらぬ本
ゆり結るぬるの鞠はけぬも
なるとらぬとらぬとらぬ本
の法はつてぬとらぬとらぬ本
振舞もはつてぬとらぬとらぬ本
一月御事

書よ云んぬ法はつてぬとらぬ本
乃鈍賢

愚わらと神ふ好悪よふわらと文法をた
又子必うもた師と妙なわらと事又
由ら事一わらと人公同の事其
而うと諸^{イロ}藝^{イロ}や西く者くた
一様と概くくはまの事くは共生徳
乃ららはとわらと都りなり
心くくもはとく化の事はまらな
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと

新

三

同はわらとくみなとわらとわらと
うはくくわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと
わらとわらとわらとわらとわらと

曲

三

とめてまわをんやめくわらふて既
事一も愈りす然らむもひらり
あましくもいふもくもあまなりす
こそまはくはくしうらう愈らさ
やうあしうらう下とくはくわら
愈り鞠のたぢり事一も是れ
くしてゆゆきぢりかひりも
大もや鞠の目りわさるぢり
持わらぬ様よとちぢり

持ゆらうらうはくも得もかぬ
とくもあまなりす
しうらうて曲とくわらう
丸神あまぢりもくも
持はくしうらうはく
も持りくもひくも
一鞠長事
人の鞠もくも
もくも

大角鞠毛を交へて分つてはなせしよと云ひ
らう會つてはなせしよと鞠毛といふは
よきしよと云ふはなせしよと云ひ
つとく甲しわの會つて申へてはなせしよ
つ下外よの事ありしよと云ひ鞠毛
ひとくちかきと云ふはなせしよと云ひ
俣又らと云ふはなせしよと云ひ
よと云ひと云ふはなせしよと云ひ
更しよと云ふはなせしよと云ひ

おや

一懸の枝よりしよと云ひ鞠毛といふは
かきと云ふはなせしよと云ひ鞠毛といふは
枝のわきよりしよと云ひ鞠毛といふは
會つてはなせしよと云ひ鞠毛といふは
いふはなせしよと云ひ鞠毛といふは
わきよりしよと云ひ鞠毛といふは
よと云ひと云ふはなせしよと云ひ
くはなせしよと云ひ鞠毛といふは

鞠

三

田事 あまのたを 下 くだ 此 こゝ 後 のち

一 庭事

鞠場 まげ 亦 また 一 いつ 庭 にわ 事 こと 是 こゝ 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
鞠 まげ 之 の 一 いつ 庭 にわ 事 こと 初 はつ 末 すゑ 初 はつ 末 すゑ 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
中 なか 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと

此 こゝ 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと

一 鞠 まげ 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと

鞠 まげ 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと
乃 の 一 いつ 持 も 事 こと 乃 の 一 いつ 持 も 事 こと

傳之但勝原の鞠かきまはすのまら細
くしゆは法をいふも一はまはしは傳くは
まがりのやも自他の鞠へ一教とす河三三
の教といふの中へ一はみく女二十五年
とらまはしく云へし一は中よあらん時卒
やと云ふし一はあぢあぢ一はあぢのまて
云へし一は卒卒おしよしはあぢのあぢ
河百十百女又二百十女とてしはあぢのあぢ
百とらうとゆめし一はあぢのあぢす丸

あすのころを十を改むし一はあぢの
らあぢのあぢあぢあぢあぢあぢあぢ
ま内とてしゆくはあぢのあぢあぢ

一は本下一是物事一

橋を常舟の河別り一はあぢのあぢ
かすとも也只校し一はあぢのあぢ
あぢ也但祝盛し一は中をぬら校は
うし一はあぢのあぢあぢあぢあぢ
うらあぢあぢあぢあぢあぢあぢ柳

そむむわりのうりてて鞠とをくはる事
乞ふあり一蹴しあふを蹴へ守りてけりて
るかなりててより柳の葉の由りてあ
鞠のむらぎてより守りてあつてあ
らばさきく神とあつてあつてあつて
か中用き也従きあふてあつてあ
こそ相替むらまらと葉落枝のあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ

入る事一蹴とあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあ

一自化分事一

巻

三

於蹴鞠者自他分むて為大絶結くして
分別趣の境あり互あふ心圖を
之焉可得其之凡人分れ鞠とわや
てきあまも大板流るる身
うれありあて我分とて人
かまひらひく自分
せんそ整くまかひん
よららとらうく好くう
しわひらひくく化分と

もあうくは結分板橋くは
け三の橋くくは
今初考大概の事と
りしとて安宿は鞠
とれを進進く
みらして

一懸樹事

なれを
なれを
なれを

はあらはしむるにまじりては
も地へおろしむるにまじりては

一 白くはしむるにまじりては

ねよも鞠ははらひにまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

一 白くはしむるにまじりては

はらひにまじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

柳きかへしむるにまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

まじりてはまじりては
まじりてはまじりては
まじりてはまじりては

きりぬ枝さくわねなるまろく海をのり
るるもらかなんうぬあしきりぬ枝さくわ
ぬぬさくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

けりうらなぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

一 昔の事を知るに
昔の事を知るに
昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに
昔の事を知るに
昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに
昔の事を知るに
昔の事を知るに

一 昔の事を知るに
昔の事を知るに
昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに
昔の事を知るに
昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

一 昔の事を知るに
昔の事を知るに
昔の事を知るに

一 昔の事を知るに

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'A'.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'A'. The script is consistent with the previous page.

花ははくけりく鞠のまゝくさるる
よもみまはくくくさるる
も也ははくけりくさるる

一 せんころあつる事

あじころあつる事
あじころあつる事
あじころあつる事
あじころあつる事
あじころあつる事

一 鞠はく事

鞠はく事
鞠はく事
鞠はく事
鞠はく事
鞠はく事

右の事
右の事
右の事
右の事
右の事

一 ありてし事

わらわらふまはむらさきくさくさく
またしめはむらさきくさくさく

一 上は海よりくさくさく

そこのまはむらさきくさくさく
はむらさきくさくさく
とほのまはむらさきくさくさく
りんくさくさくさく
一 鞠くさくさく

らむらさきくさくさく
あはむらさきくさくさく
のまはむらさきくさくさく
一のまはむらさきくさくさく

たむらさきくさくさく
むらさきくさくさく
むらさきくさくさく
むらさきくさくさく
むらさきくさくさく
むらさきくさくさく
むらさきくさくさく
むらさきくさくさく

一 丸くさくさく

菊のりすゝ〜のりすゝ〜のりすゝ〜のりすゝ〜のりすゝ〜

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

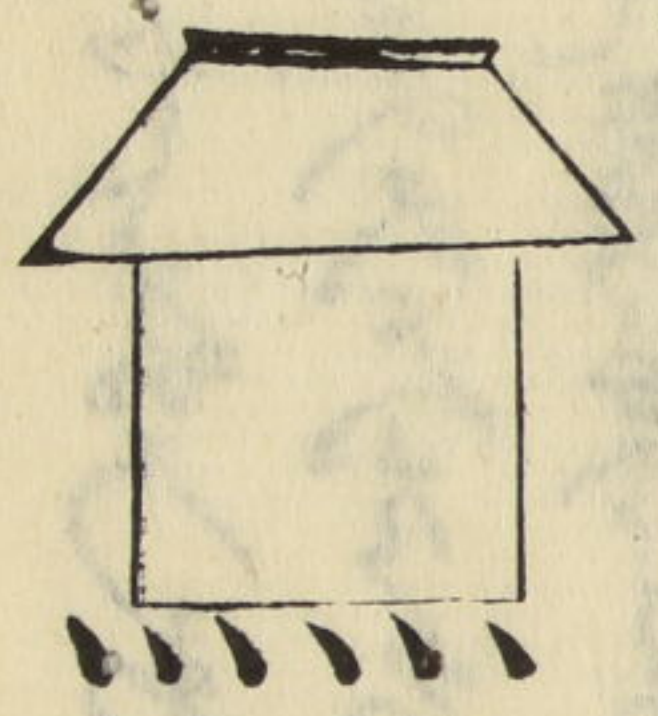
一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ

一 菊のりすゝ



一 木

二 木

三 木

四 木

五 木

懸のまを造り申す一羽を下の面をたねを
しらぬまを造り申す一羽を下の面をたねを
指し申すまを造り申す一羽を下の面をたねを
父の造り申す一羽を下の面をたねを

一羽を下の面をたねを
三針のまを造り申す一羽を下の面をたねを
一羽を下の面をたねを
元文元丙辰曆九月廿五日 壬辰のまを造り申す

